

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス ひかり富田教室					
○保護者評価実施期間	2025年 1月 20日		～	2025年 2月 5日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数)	10		
○従業者評価実施期間	2025年 2月 6日		～	2025年 2月 13日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6		
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 3日					

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	医療的ケアが必要な児童が、安心して過ごせる環境	保護者の方や関係機関と連携し、看護師による医療的ケアを実施することで、不安を抱えることなく安心して余暇時間を過ごすことができる。	有資格者職員・その他職員の知識の向上や、各関係機関との連携を図り、重度疾患の児童の受け入れ体制を作る。
2	一人ひとりのニーズに寄り添った、細やかな支援	身体状況や疾患、アレルギー等を把握し、一人ひとり支援について個別化を図っている。 一人ひとりの発達課題や年齢に応じた支援を行っている。	児童発達支援センターの専門職講師に来所を依頼する等、支援に必要な技術や知識の獲得に努める。外部・内部での研修の機会を設け、職員間の技術の統一化を図る。
3	様々な活動プログラムの体験	できない、無理と決めつけるのではなく、どうしたらできるのかを考え、公共の場への外出等も積極的に取り入れている。	児童の成長に合わせ、季節の行事や外出訓練や買物訓練等を企画する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所設備で、狭いと感じる箇所がある	活動訓練室への入り口が狭く、車椅子・バギーが通るのに窮屈で、怪我のリスクがある。	入り口を広げる事は困難なため、入室時に職員体制を複数名とする等の対策をし、児童が怪我をしないよう注意を払う。
2	家族支援の機会や保護者同士の交流の場が少ない	保護者を対象とした支援プログラムを専門的に構築できていない。 ペアレントトレーニングや父母の会の実施例がないため、保護者の不安感がある。 働いている方も多く、交流の場の設定が難しい。	保護者同士での交流の場を検討したり、職員を含めての交流会を実施するなどし、不安の軽減を目指す。
3	・移行支援の内容の充実 ・地域連携の強化	・学校を卒業し、障害福祉サービス事業所への移行例がまだない。 ・地域資源の活用をしているが、地域住民の方との交流の場は持っていない。	・今後の移行を見据えて他事業所との連携を図り、見学の機会を設ける。 ・事業所を認知してもらい機会として、体調面や感染対策を考慮した上で行政や地域のイベント参加を検討する。